

平成 28 年 12 月 16 日

能美市議会議長

北 野 哲 様

総務常任委員会委員会

委員長 米 田 敏 勝

能美市議会総務常任委員会行政視察報告書

表題の件につき、下記の通り、ご報告いたします。

記

- 1、参加者 米田委員長、橋本副委員長、杉田委員、居村委員、山本委員、
西村市民生活部長
- 2、期 日 平成 28 年 10 月 26 日（水）～平成 28 年 10 月 28 日（金）
- 3、視察先 1 日目 沖縄県南風原町 金城哲夫資料館
2 日目 沖縄県糸満市 クリーンエネルギー導入促進事業補助金について
沖縄県名護市 環境基本条例、環境基本計画について

【1 日目】

●金城哲夫資料館

金城哲夫さんの兄弟から、金城哲夫氏の生前にあった話をお聞きした。

また金城哲夫氏のウルトラマンの製作現場も視察した。

【2 日目】

●糸満市

（1）糸満市の概要

沖縄本島の最南端

平成 24 年 3 月には国道 331 号糸満道路が開通し、那覇港・那覇空港等の物流拠点や平和記念公園等の観光施設へのアクセス性が向上し、今後の地域振興への期待がもたれている。漁業の盛んな町である。

(2) クリーンエネルギー導入について

クリーンエネルギー導入の経緯

平成 8 年度に糸満市 新エネルギービジョンを策定した。

平成 21 年度に次世代エネルギーパークとして認定

- 1 循環思想の普及
- 2 地球温暖化防止の取り組み
- 3 クリーンエネルギー利用の普及
- 4 省エネルギー実践の普及

(3) 次世代エネルギーパーク

小学生から高齢者まで国民の各層が、新エネルギーを中心に日本のエネルギー問題への理解の増進を深めることを通じて、エネルギー政策の促進に寄与することを期待するもので、経済産業省が認定する。

(4) クリーンエネルギー導入促進事業補助金とは

平成 24 年から上限 100 万で行っている。

住宅太陽光発電システム

電気自動車

電気自動車充給電器

設置する人が減ってきているため、補助金を受ける人が減ってきた。

電器自動車を購入している人が少ない。

中古自動車も対象とすることで幅を広げる。

金額の設定と事業についてあり方を考えなければならない。

太陽光発電も厳しい状況 民間事業者の提案

エネルギーの町として非常に厳しい状況

優遇的に延長線上でエコ市としてがんばらなくてはならない。

エネルギーパークの市は 70 以上ある。

宮古島市

ソフト事業も考えなければならない。

●名護市

(1) 平成 25 年環境基本条例案

国では平成 5 年 環境基本法の制定

沖縄県においては那覇市、浦添市 沖縄市等が環境基本計画を策定している。

名護市環境基本条例・基本計画策定に向けた基礎調査

パブリックコメントの実施

何も決まっていない

ごみステーションを設置することでアピールしている。

名護市広報による市民のひろばを活用し 2 年間継続的に説明している。

(2) 名護市環境基本条例概要

規制するための条例ではなく理念条例であるということが重要

基本理念を具体化したものが基本方針であり、八個の細則がある。

規制的なものではなく理念条例であるとの事

環境基本条例と環境基本計画を作ったが施策のチェックができていない

(3) 特色ある環境施策

1042 名が参加しており、環境フェアを実施している。

社会情勢的にしなければならない

環境基本条例については基本的にあまりしほりがあるものはない。

16 分別している。

資源化

90 パーセント削減された。

16 分別

19 年度から 28 年度で 92 パーセント

琉球セメントにセメントを燃やしたものを再利用している。

市民のアンケート調査を取るということが重要であると思う。

市民に対する周知徹底についてとにかく出向いて対話をする。

所感

環境都市の糸満市の取り組みをきいて、環境エネルギーの難しさを感じた。太陽光発電については故障により大きな修理費がかかり売電で出た利益より大きな損失を出している。また風力発電については潮風により 3 基の風力発電が全て壊れていた。

名護市は環境基本条例をつくり、16 の分別を行うことで埋め立てゴミを 90%削減しているのはすばらしい取り組みをしていると感心させられた。能美市もより分別に取り組んでゴミの減量化を行うべきであると感じた。

